

## 中小ものづくりを支援する新JMSの誕生

JMS発足の精神を引き継ぎつつ、今まさに勝ち残りをかけて必死に頑張っている中小ものづくり経営者、とりわけ従業員を中心に据えた経営に力を尽くす経営者の役に立つものとして、JMSを再生しようというプロジェクト『JMSワーキング活動』で検討を重ねた末に、新JMSのコンセプトと成果物がまとまった。

これは、経営者自らの「行動」を自ら「見える化」して確認し、自身でスパイラルアップさせるための「きっかけ・

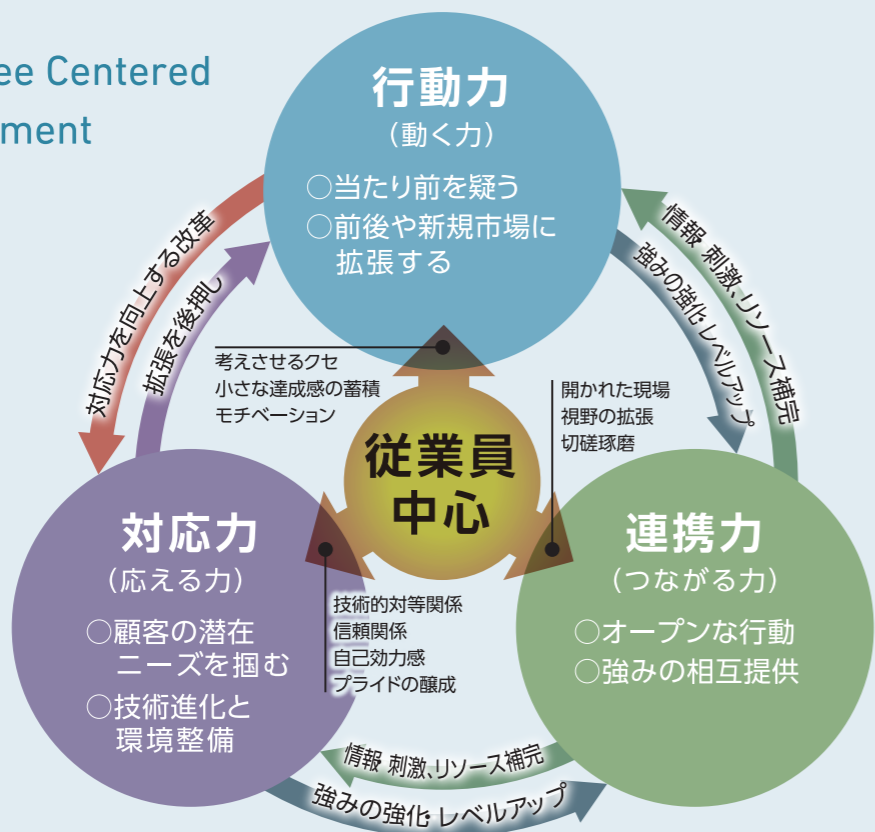
手がかり」としていただくことを目的としている。

とかく経営者の行動は管理者のそれとは違い、指摘を受けることも少なく、実行が停滞しても咎められることは稀である。今回新たに発信するJMSは、心ある経営者の自発的な踏み出しを支援し、現実を直視し内省を促すツールである。さらに、新JMSのもとで同じように取り組む経営者が相互に研鑽し、悩みを共有し、ともに向上していく「場」としてワーキング活動を運営・提供していく。

### 新JMSが支援する中小ものづくり経営観 従業員を中心に据えたマネジメント

- 行動力 (経営者自ら動く力)** 現状を当たり前とせず、甘んじず、常にレベルアップのための変化を仕掛ける。本来の目的を踏まえ、顧客にも建設的にものを言うていく。前後工程や新市場に拡張することを常に視野に入れ行動する。
- 対応力 (応える力)** 顧客の期待の一つ上を実現する。そのために、今の技術の一步先を必要とする環境を作り、挑戦させる。
- 連携力 (つながる力)** オープンな姿勢で行動し、補い合う。他社の強みを素直に、敬意をもって接して刺激を受けつつ、自社の強みを提供し、外の風をあてて鍛える。

### Employee Centered Management



## 新JMSのフレームワーク

### 長期的に勝ち抜ける中小ものづくり企業に 欠かすことのできないものはなにか。

唯一無二の技術や、類稀な、個性豊かな経営者の手腕・才覚など、傑出した強みがなくても、顧客から一目置かれる企業はある。そうした企業は、結果としての製品のQCDは当然のこと、それ以上に魅力を感じさせるものを具備している。それは何か。

中小ものづくり経営者の日々の行動に着目したところ、従業員重視、現場重視の経営者の行動が成長の鍵であるとの結論に至った。

持ち味として、経営のあり方は千差万別、実践も様々あってこそその中小企業だが、現場にはそのすべてが現れる、まさに「現場は雄弁」である。

また、トップを筆頭に経営監督者がマネジメントを実践している現場には、顧客に「一緒にものづくりしたい」と思わせる力がある。また、従業員からも顧客に「見せたくない現場」は何にも代えがたいセールスプロモーションであり、「現場は強み」に他ならない。

これらから、今回JMSは「トップ自身の経営標準」たり得る、新JMSフレームワークを構築した。トップの現場での実践を問うフレームワークとなっている。

### 3分類 × 3要素 で現場を捕捉

